

3年間を振り返って

豊岡市の農業の発展に向けて

豊岡市農業委員会 会長 平田 敏通



会長という大役を受けてから
早や三年が経過しようとしています。

当初から、日本農業を取り巻く環境の変化に対応すべく、農業委員会のあり方が議論され始め、独立行政機関として現状認識をしつかりとし、組織理念である「かけがえのない農地と担い手を守り、力強い農業をつくる。かけ橋」となることを合言葉に、農地を守る許認可や政策要求、地域農業の活性化が振興されるよう行政当局と関係機関との連携を密にし、お互いが協力し責任を果たすべく、委員全員が丸となって取り組んで参りました。

また、T P P交渉が本格化する中、農産物重要品目の聖域確保のための活動、自給率向上に向けた新農政施策「人・農地プラン」への積極的な取組み、担い手支援対策として意見交換会や出前就農相談会の開催、遊休農地解消に向けたパトロール活動や話し合いによる解決、食農教育や地産地消の推進等、現体制でできる限りの活動に精一杯取り組んできた三年間でした。

戦後65年続いた農業委員会法の改正により、委員公選制の廃止・定数削減等が行われ、本市では4月21日から新体制が発足します。農業・農村を取り巻く環境の変化を考慮すれば、改革もやむを得ないことかと理解をする一方、これで良い方向なのかと考えさせられます。

新たな制度の下でスタートする農業委員・農地利用最適化推進委員との相互協力の中で、豊岡市の農地が守られ、農業者の皆さんがより発展することが出来るよう祈念申し上げるとともに、委員会活動へのご協力ご指導をいただきました皆さんにお礼を申し上げご挨拶いたします。

農地利用の最適化に期待する

農地部会会長 川見 茂



私たち農地部会は、農地を守る立場で、農地法に基づく農地の権利移動等の許可、農地の転用の県知事への意見具申の決定、利用権を設定や農振計画に係る農用地利用計画の変更に対する意見の決定など、年間三〇〇件にのぼる案件を審議し議決してまいりました。

この三年間、これらの審議を通して、農地の集約に資する権利移動がある中、後継者不在のため止むを得ず農地を売却せざるを得なくなった、又は、我が集落の農地を守るため購入することとなった事例、或いは、農地としての維持が困難になるなどの理由から太陽光発電施設への転用など、農村が抱える問題を反映した事案が多く見受けられました。

農地部会においては、このような状況を踏まえ、法の遵守を前提に、現地調査等による現状確認の上、地域の立場に立った審議に努めて参りました。

また、この度の農業委員会法の改正により、農地の担い手への集積・集約や遊休農地の発生防止・解消などが益々重要な業務と位置付けられ、これまで以上に地域の皆様の意見をお聞きし、地域の現状をしつかり把握し、農業と農村が持続可能であるために活動しなくてはならないと実感しています。

四月には、農業委員と農地利用最適化推進委員による新体制となり、益々、農地等の利用の最適化が進められることを期待します。

最後に、地域の皆様と共に活動した委員の皆様のご協力に感謝し、お礼を申し上げます。

地域は小さな農家のつながり

農政部会会長 森井 脩



農地の集積で経営規模の拡大、企業の農業参入促進、輸出拡大、規制緩和などで、強い農業・攻めの農業を目指すことがグローバルイズムの下で進められていますが、それだけでなく、家族経営の小規模農家が支えている地域の実情に合った農業の姿を求めることも大切だと思います。大規模農家だけでは地域農村の農地や環境を守り続けることは困難です。地域は多くの農家がいて、つながってこそ成り立つのだと思います。

農政部会では、今日の地域農業の抱えている諸課題について、土地を知り、人を知る農業委員として、部会内での議論を深めると共に関係する諸団体・農業者との意見交換を行い、高齢化・後継者不足問題、有害鳥獣対策、環境創造型農業の推進と地産地消の拡大などについて、小委員会を設けて活動を展開し、その成果を建議に盛り込み豊岡市の農政に反映させてきました。こうした豊岡市農業委員会独自の活動は高い評価を得てきています。

この三年間、様々な困難の中で前向きに取り組んでいる農家の人たちから多くのことを学びました。皆様のご協力に感謝し、お礼申し上げます。

農業委員会活動

地産地消と食農教育の推進委員会

(委員長 中山 優)



本委員会では、①地場産農作物の学校給食等への利用促進②地産地消と食農教育の推進③環境にやさしい農業の推進を柱に取り組んできました。

地場産農産物の学校給食使用率を高めること、幼いころから農業体験ができるような配慮、「コウノトリ育む農法」の生産から販売までの支援体制強化等を建議しました。

実践活動では、直売所連絡協議会との意見交換会、三年間にわたり港認定ことも園でダイコンやサツマイモを畑作りから収穫、調理して食するところまで子どもたちと一緒に体験しました。小坂小学校では、児童自作の大豆で味噌作りもしました。六次産業化につながればと、地場産の材料で巻きずしを作り爆発的な人気を誇る多可郡「マイスター工房八千代」のほか、小野市、富山市でも研修し、「農委だより」等で内容紹介をしました。

また、JAたじまの「あぐりキッズスクール」事業に参加。本年度は「コウノトリ育む農法」でのポット成苗の田植え

等現地研修や、伝統野菜・特産農産物の発掘・紹介の一環として「八代オクラ」を栽培、種を採取し栽培希望者にお渡ししました。

まだまだできることはあります。次期農業委員の益々のご活躍を期待しますと共に地域の多くの方々にご支援ご協力をいただきましたことを心よりお礼申し上げます。



担い手育成支援推進委員会

(委員長 永井辰正)



平成26年8月、「雇用就農の課題と展望について」意見交換会を開催、中谷農事組合、グリーンいずし、(有)あしたで働いている若い就農者たちの現状や夢を聴かせていただきました。目標に向かって就農されている若者たちの心意気に敬意と感動を覚えると共に、本委員会でも応援したいと、以後毎年度就農者達との意見交換会を開催しました。そこでの意見・要望は、建議として市長へ提出しました。

ところで、農業に魅力がないという感覚：天候に左右され、冬場の雪による被害、農業だけでは生活できない、配偶者に恵まれにくいなど、現実には厳然としてあります。兼業農家も高齢者も多い豊岡市では、なおさら田畑は大切な財産で、農地集積化の大きな妨げにもなっています。

豊岡市全体が農業を重視し、地産地消、安心・安全な農産物栽培に一丸となつて取り組むことが不可欠であると考えらるならば、若い担い手の確保・育成は欠かせません。

安心して就農できるためには、法人の起ち上げ・機械整備・圃場確保・制度紹介等へ惜しみない援助が必要です。

今後とも、ベテラン・新たな担い手の皆様からのご指導やご意見を賜わり、四月からの新体制の農業委員会が、今期以上に農業者と心を同じくして市の農業施策に寄与し、その責任の一端を担うことを期待します。

獣害対策検討委員会

(副委員長 加藤 有)



本委員会では「農家の皆様と行政との橋渡し役」と自覚して活動しました。平成26年度に但東(矢根)地区、27年度に日高(西気・清滝)地区及び市有害鳥獣捕獲班の方々と、また、28年度は港地区全域の関係者と意見交換会を行いました。



日高地区と港地区での意見交換会には、市担当者や鳥獣対策員の岡居さんにも出席いただき、補助制度の説明、獣害の現状や対策・捕獲班の活動状況・被害防止のアドバイス等を頂きました。これらの活動から、捕獲班員の増強、捕獲出動回数の増加、継続的な駆除体制、各地区設置の捕獲檻の通年使用、防止柵等の設置や補修の補助拡充、クマ対策等について建議をしました。

当局のご理解により、鳥獣対策員の増員、ワナ捕獲専任班の創設、各地区設置の捕獲檻の通年使用等が実現し、『橋渡し役』として一定の役割は果たせたのではないかと考えています。

次期農業委員は数が半減し、獣害対策への取組みが低下するのではと懸念しますが、『獣害』は、耕作意欲を喪失させる放置できない課題です。次期も引き続き、取組みが行われることを期待しています。